



本日は、私達ミライエを龍野ロータリーの会合に呼んでくださいますありがとうございます。私は森口様より、紹介を頂きました岸本美一と申します。

大学を卒業後、60歳の定年退職までは高砂市内の中学校で教師をしていました。その後、姫路のハーベスト医療福祉専門学校へ3年間勤務、その後、友人と一緒にSBC姫路日本語学校を立ち上げ、現在に至っております。

同時進行にはなりますが、26歳の時から自宅で空手道場を開設し、現在に至っております。来年で、この道場は50年を迎えます。流派名は沖縄小林流妙武館空手道と申します。私は10段です。得意の型は「封じ手」です。お時間があれば岸本美一で検索していただければ幸いです。

今日、皆さまに訊いて頂きたい話は、この空手道場が舞台になります。

17年程前にさかのぼります。二人のダウン症の小学生が、母親に連れられて入門してきました。特別支援学校へ通っており、美術部に所属しておりました。二人は障がいをもものともせず、「文武両道」を目指し、頑張り続けました。それに刺激を受けたのか、続いて3人が入門してきました。毎日の部活動、それから週3回の空手教室、大変な日々が続きました。

5年ほど経ったある日、一人の母親が、一枚の表彰状を持って道場へやってきました。そして目を輝かせて言われました。「健常者と一緒の絵画展に出展し入選しました。」

その後、顔を曇らせて言われました。「学校を卒業してしまうと、絵を描く場所が無くなってしまふのです」と。

その話を一緒に訊いていたレディース空手(女性の空手団体)の代表の正木さんが言われました。「週1回、ここで絵を描きましょう」……即決です。

先生は、近所の中学校で美術教師をしている千歳先生がして下さることに成りました。これが絵画教室の始まりです。絵画展に入賞した子供の母親が会の名前を「ミライエ(未来へ)」と付けました。11年前の事です。すると、レディース空手の正木さんはグループ展を提案しました。

以来、それが続いており、今年の7月に第10回目のグループ展を開催します。皆は腕を上げ、各種公募展でも次々と入賞してくるようになりました。大変なことが起こり始めました。

今日、4人の作品を持って来ました。皆さまに審査していただけたらと思います。

昨年4月、成人した5人を中心に「ミライエ工房」を立ち上げました。これが、世界戦略の始まりです。ITを活用し世界に発信していきます。

夢は、ニューヨーク、パリ、ロンドンでグループ展を開く事。今日は、輝かしい経歴が一つ増えました。龍野ロータリークラブで卓話をさせて頂いたと言う実績です。5人はこの実績を背中に背負い、世界へ飛び出していきます。

何卒、今後共、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。



■ 絵画教室



■ 写生会



■ 絵画展



■ 空手教室



■ キッズサーキット

